



ワシントン州と兵庫県、両州・県にとって最も深い国際関係である本姉妹提携が50周年を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。50年という長きにわたる交流の軌跡をお祝い申し上げるとともに、両州・県の限りない未来に心を弾ませつつ、この地で日本の代表として任に就くことを大変光栄に思います。

国際社会における繋がりが益々複雑化し、絶えず変化を続ける世界にあって、この強固な友好関係のさらなる深化のためにご参集いただいた皆様に感謝申し上げつつ、まず、両州・県にとって重要な意味を持つ桜についてお話しさせていただきます。今から101年前の1912年、日米友好のシンボルとして日本からアメリカに桜の木が贈られました。その桜の若木は元々は兵庫県伊丹市の桜から接ぎ木されたもので、太平洋を渡り、シアトル港を経由して大陸を横断し、ワシントンDCに植樹されたのです。それ以来、毎春100万人以上もの方々が、ワシントンDCのポトマック川沿いに咲く桜を見に訪れています。日米の友好関係は、100年以上も前にワシントン州と兵庫県の努力により種が蒔かれ、育まれたと言えるでしょう。

これまで私たちは、密接な経済関係をはじめ、多数の学校間交流や姉妹都市プログラムなど、長い交流の歴史を共に作り上げてまいりました。このような深い関係の構築にご尽力いただいたすべての皆様に、心から感謝と尊敬の念を表します。今ここに、半世紀にも及ぶ友好関係の継続・発展を共に称え、祝い、次なるステップへの道を切り開こうとしています。ワシントン州と兵庫県の輝かしい未来への期待を胸に、我々全員が力を合わせれば、不朽の友好・協力・相互理解の関係を構築できると信じております。

最後に、インズリー知事、井戸知事、ワシントン州及び兵庫県の皆様、関係するすべての方々に対し、祝意と繁栄を祈念申し上げます。これから始まる次の50年を真にすばらしいものに築き上げてまいりましょう！

2013年8月19日

在シアトル日本国総領事

大村 昌弘